

高等学校芸術科（音楽）採点基準

3枚のうち1

【注意】問題によっては、部分点を可とする。

問題番号		正 答 [例]		採 点 上 の 注 意	配 点			
1	(1)	(a)	中田章		各 2 × 3			
		(b)	中田喜直					
		(c)	オルガン					
	(2)	※ 別紙（計1枚）			3			
	(3)	※ 別紙（計1枚）			10			
	2	(1)	楽 曲 名	組曲「展覧会の絵」より「プロムナード」	作曲 者 名	ムソルグスキー	内容を正しくとらえていれば、表現は異なってもよい。	各 3 × 4
		(2)	楽 曲 名	歌劇「アイーダ」より「凱行進曲」	作曲 者 名	ヴェルディ		
	3	(1)	小声で、声や音をひそめて		内容を正しくとらえていれば、表現は異なってもよい。	各 3 × 3		
		(2)	1つのパートを分けて					
		(3)	重々しい、荘重な、ゆるやかに遅い					
4	(1)	①	呂音と同じ運指の1オクターブ高い音のこと。	内容を正しくとらえていれば、表現は異なってもよい。	各 4 × 3			
		②	同じ音が続くとき、その都度吹き直さず押さえている指孔から指を一瞬離してすぐふさぐ等して音を区切る奏法。					
		③	楽器の音を、日本語のもつ固有の響きによって表すもの。					
	(2)	※ 別紙（計1枚）			6			
5	(a)	シタール		二胡 もよい。 ソルナー もよい。	各 3 × 4			
	(b)	バグパイプ						
	(c)	アルフー						
	(d)	ズルナ						

70

高等学校芸術科（音楽）採点基準

3枚のうち2

【注意】問題によっては、部分点を可とする。

問題番号	正 答 (例)	採 点 上 の 注 意	配 点								
1	事項ア, イ, ウのそれぞれをエと関連付けて指導すること。	内容を正しくとらえていれば、表現は異なってもよい。	8								
2	音色, リズム, 速度, 旋律, テクスチャ, 強弱, 形式, 構成など。	内容を正しくとらえていれば、表現は異なってもよい。	8								
3	五線譜だけではなく、文字, 絵, 図, 記号など, その音楽にふさわしい方法を用いるようにすること。また、コンピュータや録音機器などを活用した記録方法も考えられる。	内容を正しくとらえていれば、表現は異なってもよい。	8								
2	<p>題材名 (「かえるの合唱」のメロディーを変化させて変奏曲をつくろう)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>時間</th> <th>学習活動</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>第1時間目</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ○ イメージをもち、即興的に音を出しながら創作する活動に主体的に取り組む。 <ul style="list-style-type: none"> ・教材曲「かえるの合唱」について変化させたいイメージをもち、音色、速度、強弱を工夫して実際に音を出しながら、グループで試行する。 ・教師の説明によって「変奏」について知る。 ・「きらきら星変奏曲」(モーツァルト作曲)を聴き、楽曲の雰囲気の変化について感じ取ったことや気付いたことを自由に話し合う。 ・教師の説明や演奏を聴くなどして、リズムや拍子の変化など、変奏曲をつくるポイントに気づき、自分がつくりたい変奏曲についてのイメージをもち。 </td> </tr> <tr> <td>第2時間目</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ○ リズムや拍子などの変化による雰囲気の違いを感じ取って表現を工夫し、表したいイメージと関わらせて変奏曲をつくる。 <ul style="list-style-type: none"> ・前時の学習を想起し、自分がつくりたいイメージやそのための工夫をワークシートに書く。 ・実際に音を出して確かめながら、表現したいイメージに合うような変奏曲をつくる。 ・グループで、互いの発想や見通しを伝え合ったり、つくっている音楽を聴き合い、音楽の構造とそこから生まれる特質や雰囲気との関わりについて確かめ合ったりすることで思考を深める。 ・他者との交流を基にさらに表現を工夫する。 ・自分がつくった作品をワークシートに記録する。 </td> </tr> <tr> <td>第3時間目</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ○ 音楽を形づくっている要素の働きを変化させ、変奏をする技能を身に付け、表現したいイメージにふさわしい変奏曲をつくる。 <ul style="list-style-type: none"> ・前時の記録を基に実際に音を出しながら演奏し、試行錯誤しながらイメージにふさわしい変奏曲を完成させる。 ・全体で作品発表会を開き、それぞれ自分がつくった作品を発表し合う。 ・演奏を振り返り自己評価を行うとともに、他者の表現についてよいと思ったことを交流する。 ・他者の意見を参考に修正を加え、よりよい作品にする。 </td> </tr> </tbody> </table>	時間	学習活動	第1時間目	<ul style="list-style-type: none"> ○ イメージをもち、即興的に音を出しながら創作する活動に主体的に取り組む。 <ul style="list-style-type: none"> ・教材曲「かえるの合唱」について変化させたいイメージをもち、音色、速度、強弱を工夫して実際に音を出しながら、グループで試行する。 ・教師の説明によって「変奏」について知る。 ・「きらきら星変奏曲」(モーツァルト作曲)を聴き、楽曲の雰囲気の変化について感じ取ったことや気付いたことを自由に話し合う。 ・教師の説明や演奏を聴くなどして、リズムや拍子の変化など、変奏曲をつくるポイントに気づき、自分がつくりたい変奏曲についてのイメージをもち。 	第2時間目	<ul style="list-style-type: none"> ○ リズムや拍子などの変化による雰囲気の違いを感じ取って表現を工夫し、表したいイメージと関わらせて変奏曲をつくる。 <ul style="list-style-type: none"> ・前時の学習を想起し、自分がつくりたいイメージやそのための工夫をワークシートに書く。 ・実際に音を出して確かめながら、表現したいイメージに合うような変奏曲をつくる。 ・グループで、互いの発想や見通しを伝え合ったり、つくっている音楽を聴き合い、音楽の構造とそこから生まれる特質や雰囲気との関わりについて確かめ合ったりすることで思考を深める。 ・他者との交流を基にさらに表現を工夫する。 ・自分がつくった作品をワークシートに記録する。 	第3時間目	<ul style="list-style-type: none"> ○ 音楽を形づくっている要素の働きを変化させ、変奏をする技能を身に付け、表現したいイメージにふさわしい変奏曲をつくる。 <ul style="list-style-type: none"> ・前時の記録を基に実際に音を出しながら演奏し、試行錯誤しながらイメージにふさわしい変奏曲を完成させる。 ・全体で作品発表会を開き、それぞれ自分がつくった作品を発表し合う。 ・演奏を振り返り自己評価を行うとともに、他者の表現についてよいと思ったことを交流する。 ・他者の意見を参考に修正を加え、よりよい作品にする。 	<p>題材名は、問いを正しくとらえていれば、内容は異なってもよい。</p> <p>学習活動は、問いを正しくとらえていれば、内容は異なってもよい。</p>	64
	時間	学習活動									
	第1時間目	<ul style="list-style-type: none"> ○ イメージをもち、即興的に音を出しながら創作する活動に主体的に取り組む。 <ul style="list-style-type: none"> ・教材曲「かえるの合唱」について変化させたいイメージをもち、音色、速度、強弱を工夫して実際に音を出しながら、グループで試行する。 ・教師の説明によって「変奏」について知る。 ・「きらきら星変奏曲」(モーツァルト作曲)を聴き、楽曲の雰囲気の変化について感じ取ったことや気付いたことを自由に話し合う。 ・教師の説明や演奏を聴くなどして、リズムや拍子の変化など、変奏曲をつくるポイントに気づき、自分がつくりたい変奏曲についてのイメージをもち。 									
	第2時間目	<ul style="list-style-type: none"> ○ リズムや拍子などの変化による雰囲気の違いを感じ取って表現を工夫し、表したいイメージと関わらせて変奏曲をつくる。 <ul style="list-style-type: none"> ・前時の学習を想起し、自分がつくりたいイメージやそのための工夫をワークシートに書く。 ・実際に音を出して確かめながら、表現したいイメージに合うような変奏曲をつくる。 ・グループで、互いの発想や見通しを伝え合ったり、つくっている音楽を聴き合い、音楽の構造とそこから生まれる特質や雰囲気との関わりについて確かめ合ったりすることで思考を深める。 ・他者との交流を基にさらに表現を工夫する。 ・自分がつくった作品をワークシートに記録する。 									
第3時間目	<ul style="list-style-type: none"> ○ 音楽を形づくっている要素の働きを変化させ、変奏をする技能を身に付け、表現したいイメージにふさわしい変奏曲をつくる。 <ul style="list-style-type: none"> ・前時の記録を基に実際に音を出しながら演奏し、試行錯誤しながらイメージにふさわしい変奏曲を完成させる。 ・全体で作品発表会を開き、それぞれ自分がつくった作品を発表し合う。 ・演奏を振り返り自己評価を行うとともに、他者の表現についてよいと思ったことを交流する。 ・他者の意見を参考に修正を加え、よりよい作品にする。 										
4			40								

高等学校芸術科（音楽）採点基準

3枚のうち3

【注意】問題によっては、部分点を可とする。

問題番号	正 答 〔例〕	採 点 上 の 注 意	配 点	
1	(1) その音楽固有の表情や味わいなどのこと。	内容を正しくとらえていれば、表現は異なってもよい。	各 8 × 2	
	(2) 音楽を形づくっている要素がどのように働いているのか、要素同士がどのように関連し合っているのか、音楽全体がどのように成り立っているのかなど、音楽のもつ形。			
3	<ul style="list-style-type: none"> ・ 幼いころから広くヨーロッパ各地を巡り、様々な都市の音楽文化を吸収し、自分の作品に反映させた音楽家の作品であることを踏まえて作品を解釈し、再び曲を鑑賞させる。 ・ 幼いころから神童と称され、36年に満たない短い生涯であらゆるジャンルの傑作を残したモーツァルトに、数多くの書簡からうかがい知ることができる彼の音楽的評価とはかけ離れた人物像があることを踏まえて作品を解釈し、再び曲を鑑賞させる。 ・ 当時の音楽家が、自分の個性を示した作品を好きなように書き、それに対して需要を得ていたわけではないことを知り、自由音楽家として生活しながらも、安定した雇用を求めていたモーツァルトの芸術家像を踏まえて作品を解釈し、再び曲を鑑賞させる。 ・ 宗教音楽、オペラ、交響曲、協奏曲、室内楽曲、クラヴィーア（ピアノ）曲、歌曲など、モーツァルトの残した他の作品を知るとともに、モーツァルトが残した20作を超えるオペラの中で、もっとも多い上演回数を誇る代表作だということを踏まえて作品を解釈し、再び曲を鑑賞させる。 	2つ書かれていればよい。問いを正しくとらえていれば、内容は異なってもよい。	各 10 × 2	36
4	(a) 幅広い		各 2 × 5	30
	(b) 資質・能力			
	(c) 多様性			
	(d) 創意工夫			
	(e) 感性			
2	感性を働かせ、音や音楽を、音楽を形づくっている要素とその働きの視点で捉え、自己のイメージや感情、音楽の文化的・歴史的背景などと関連付けること。	内容を正しくとらえていれば、表現は異なってもよい。	10	
3	生徒が音楽に関する言葉を用いて、音楽によって喚起されたイメージや感情、音楽表現に対する表現意図などを相互に伝え合う活動。	内容を正しくとらえていれば、表現は異なってもよい。	10	

1

1

(2)



(3)

著作権保護の観点により、掲載いたしません。

4

(2)

著作権保護の観点により、掲載いたしません。